

司書・司書教諭課程室TAを通じて

大学院 文学研究科 独文学専攻 博士後期課程1年
松澤 智子

大学院入学と同時に、司書・司書教諭課程室のTAの業務に携わることができた。当初はわからないことばかりで、緊張しながら業務をしていたが、3年が経った今では、年間の行事を視野に入れながら業務に就いていると実感すると同時に、先生方や職員さんたち、そして他のTAたちから親切にさせていただきながら、授業補助の一端を担うことができ嬉しく思っている。課程室が、私の大学生活で欠かすことができない場所の一つになっていることは確かである。

一昨年度、昨年度に続けて、今年度も明治大学リパティアカデミーの「図書館司書講習夏期集中講座」のお手伝いをさせていただく機会を得た。実際に図書館に勤務していた経験もあるため、資格取得を目指して毎日懸命に授業に出席している受講生の方々が、先生の説明を必死にノートに書き、パソコンの前に座り見慣れぬデータベースと向かい合っている姿を見ると、私は時々戸惑いを覚えた。何故ならば、机上での勉強と実務とでは大きな違いがあるからだ。講座期間に絶対に覚えなくてはならない事と、実務で経験しながら繰り返し確実に覚えればよい事があるので、ポイントを押さえながらリラックスして講習を受けて欲しいのだが、当然ながら必死である受講生にとってはそうは言えないのが現状である。

そういう私自身は、どうであっただろうか。司書資格を得てからもう十数年の時が過ぎてしまっているが、些細なことにこだわって演習する時間が短くなってしまったことや、完璧にしなければならないという思い込みが強すぎて、心に余裕がなかったことは思い出すことができる。試験に合格しなければ資格を得られない緊

張と、何が出題されるかわからない不安。学習したこと全てを覚えて、試験に挑まなければならないと思っていた。集中講座に出席する方々も、おそらく同じ心境であろう。不安を抱いて受講している人に、私はわかりやすい説明することができていたであろうか。補助をする立場として、図書館学の知識がきちんと備わっているのだろうか。今後も講習の補助をする機会がある際は実務経験を活かし、より良い補助業務ができるように努めたい。

司書資格を目指す人の動機はさまざまである。講習会で受講生と接することで、自分がなぜ司書になろうと決意したのかを思い出し、初心に戻ることができる。私が司書資格を得ようとしたのには幾つかの理由があるが、一番の理由を記したい。数十年間も使用されていなかった近所の建物が、付属している図書館も含めて全面改装されたことがきっかけであった。図書館が素敵であると耳にしたので、興味本位で見に行ったら。足を踏み入れた時、映画のワンシーンで見る様な趣のある佇まいと時間が止まってしまったかと錯覚してしまうほどの素敵な空間に感激し、胸が高まったことを今でも覚えている。「ここで働きたい！」という思いが、私を図書館司書資格の取得に繋がった。

資格を取得して大学図書館で勤務し始めると、日々懸命に勉強する大学生たちに感化された。あまりにも不真面目だった自身の大学生活を反省して、今度はきちんと勉強しようと思い大学受験に挑んだ。無事に明治大学に合格し、現在は司書・司書教諭課程室のTA業務に従事することができている。振り返ってみると、司書資格を取得したことで、私の人生がさらに広がったと言っても、過言ではないだろう。